

がくじ



摂南大学図書館報

No. 51

1997.10

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや—

*題字は王羲之の書による

「友からの便り」

経営情報学部教授

よしの きぬこ
吉野 絹子

一冊の本を手にするとき、その本とどんな出会いがあるのかを予想することは、新しい人との出会いのように心ときめく楽しい瞬間である。この夏の嬉しいお相手は、鮮やかなレモンイエローに装丁されて現れた。彼女は、私の古くからの友が初めて自費出版して、この世に産声をあげた作品[※]第1号である。「私の初めての本ができました。感謝の気持ちをこめて贈ります。」こんな言葉を添えて、私よりいくらか若いこの本の著者は、少しはにかみながらこの本を届けてくれた。

この本は、彼女の小さな自叙伝である。四国で生まれ育ったこの人は、大学を卒業すると、大阪で肢体不自由児の養護学校の先生になった。子どもと接することが大好きで、教えることが嬉しくてたまらない人だった。彼女とのつきあいは私がまだ大学に在籍中、非常勤でこの養護学校に勤めだした頃から始まったのである。

元気一杯の彼女が「慢性関節リウマチ」に侵され始めたのはまだ27歳という若さだった。病い

の進行とともに、少しずつ不自由になる身体と競い合うように、入退院を繰り返しながら20年近く現役の教師として仕事を続けた。痛みとともに過ごす毎日の苦痛と将来への不安を、当時の私がどれほど理解しえただろうか。

人工関節が小さな身体に6個も入って、身障手帳1級を持つ現在、彼女は再び故郷の家に戻って自分の生活を始めている。決して平坦ではなかっただろう生活や感情の道筋を思いながらも、淡々と綴られたこの本を読んでいると、悠々自適と形容したくなるような心のゆとりと、ますますたくましく、どん欲に人生を楽しんでいる彼女の豊かさに出会う思いがする。

世の中には実に多くの本があるが、ごく身近な人の綴ったこの本の中に、その人となりがより鮮明に現われ、一人一人にかけがえのない人生があることを気づかされるひとときであった。

※「コーヒーの香と麦の穂」中田明美著（非売品）

～ 目 次 ～

「友からの便り」（吉野絹子）	1
「フマーニオール・コーナー」のすすめ（1）	2, 3
（澤井健二・岩間香・福田市朗・吉岡正則・光藤景皎）	
'96年度貸出図書ランキング	4, 5
図書館員が薦める1冊「くろねこのうた」	5

自作を語る「夜になるまえに」（安藤哲行）	6
自作を語る「大破産・中国の国有企業改革」（武吉次朗）	7
特色ある新着資料	8
耐震工事・カーペットの張り替え	8

「フマーニオール・コーナー」のすすめ (1)

図書館に「フマーニオール・コーナー」が今年4月から新設されました。このコーナーは、より豊かで温かい人間性をもつ若人がこの学窓から巣立っていくことを願って設けられたものです。

同コーナーの図書の選書は、各学部先生方にお願ひしました。そこで、選書にあたられた先生に、どのような観点から選ばれたのか、それらを読むことによって学生諸君に何を読み取ってほしいかを語っていただきました。

今号から数回にわたって連載の予定です。

「大地の川」「天空の川」と著者 関正和

工学部教授 澤井 健二

建設省治水課専門官といえば、日本全国の各河川に予算を配分するとともに、河川事業の推進に関する諸問題を解決する猛烈に多忙な職である。関正和氏はその多忙さの中で、安全でかつ人にやさしく、また自然にやさしい河川行政ならびに技術のあり方を模索し、粘り強く周囲を説得しつつ、合意を形成していくことの重要さをいち早く説き、実践したいわば河川環境行政の草分け的存在である。

「大地の川」にはその過程がきわめて平易な言葉で簡潔に綴られており、多自然型川づくりの社会的意義がよく説かれているとともに、関氏の美意識、社会観、人生観をよくうかがうことができる。

そのハードな生活がたたったか、関氏は数年前(42才の時)にガンに侵され、1995年1月、5年間の闘病のかいなく、亡くなった。

「天空の川」には、関氏が病に侵されたことを自覚してからの闘病生活が克明に記されている。そこには、ガンと知りながらますます意欲的に自らの仕事を完結させようとする著者の不屈の闘志、責任感がにじみ出ているとともに、夫人との強い絆、周囲への気配り等、心温まる美学が展開されており、涙を誘われずにはおられないが、それでいて、読者に希望と勇気を与えてくれる。

今回図書館に新設された「フマーニオール・コーナー」には日本や外国の優れた小説が数多く含まれている。優れた小説は優れた人間の小説ではない。むしろ希望がかなえられず挫折する人間、社会の重圧に抗しきれない人間…大きな歴史の中で倒れていく人間、人の心に残る小説はそうした弱い人間を丁寧に描いたものなのである。

田山花袋「田舎教師」は希望に満ちた青年が、やがて田舎に“埋もれて”しまう悲しみを描く。自然の美しさを交えた淡々とした描写が胸をうつ。林芙美子「放浪記」の主人公は、貧しい生活の中で文学への希望を捨てきれない。さまざまな人と出会い、別れる姿が鮮烈に描かれている。これらの主人公たちの挫折と葛藤は、青年期には誰でも経験するものであろう。また井上靖「天平の薨」は奈良時代の鑑真の来日を題材にするが、同時に多くの無名の人々の生きる姿を描いている。希望に燃えて唐に渡ったものの、学問において思うような成果をあげられない僧。彼はやがて写経という、自分にふさわしい仕事を見つけだす。もっと早く自分の力を知るべきであったと静かに語る僧の言葉は、読む者に人生を考えさせずにはいられない。生きる時代、環境は違っても、ここに描かれている苦しみは普遍的で、主人公たちの言葉は今日の我々にも強く訴えかける。「フマーニオール・コーナー」の小説を通じて、さまざまな生き方を見つめ、豊かな人間性と深く広い心を育ててほしいものである。

〈推薦図書〉

- | | |
|------------------------|------|
| ①大地の川—甞れ日本のふるさとの川— | 関正和著 |
| ②天空の川—ガンに出会った河川技術者の日々— | 関正和著 |

〈推薦図書〉

- | | | | |
|---------|--------|--------------------|-----------|
| ①天平の薨 | 井上靖著 | ⑤ツアラトストラかく語りき(上・下) | ニーチェ著 |
| ②個人的な体験 | 大江健三郎著 | ⑦放浪記 | 林芙美子著 |
| ③邪宗門 | 高橋和巳著 | ⑧罪と罰 | ドストエフスキー著 |
| ④田舎教師 | 田山花袋著 | ⑨土 | 長塚節著 |
| ⑤銀の匙 | 中勘助著 | | |

心に残る小説は弱い人間を

丁寧に描いたもの

国際言語文化学部助教授 岩間 香

人間の成長と社会の関係

経営情報学部教授 福田 市朗

人は成長するにつれて、親に対する子、友人に対する友、学生、社会の一員、あるいは男(女)

として、様々な角度から自分のことを考え始める。そして、最後に、自分を人間として考えることになる。では、人々はどのように自分を意識し、自分の生き方を決めていたのだろうか。そこには、時代の特殊性や人々を取り巻く特殊な事情のために、極めて多様な人間像が出現する。ここに挙げた5冊の本は、人間として成長するなかで人々が経験する自己認識の姿を各々の視点で描いたものである。

「デボラの世界」には一度閉ざした心を再び広げてゆく少女の姿が、「沈黙」と「細川ガラシャ夫人」には自分の生き方を決めんとする人々の苦渋が描かれている。他の2冊には人間と社会の関係が描かれている。「坂の上の雲」は、作者によれば“熱病に冒されたとしか言いようのない馬鹿げた太平洋戦争”に突っ走った日本と日本人について、自分を日本人として意識した作家が明治期の人々の姿を通して答えをだそうとした小説である。「海の都の物語」は複雑なヨーロッパの歴史のなかで千年も続いたベネチアという都市国家とそれを支えた人々を描いたものである。

人間の社会はお互いに心を開き合うからこそ成立する。他者や社会に心を開き、自分を見つめることは人間としての成長に他ならない。自分の世界を広げるなかで人々が会おう人と社会、その社会と人間の相互関係を以上の本を通じて理解できたらと願う。

〈推薦図書〉

- | | |
|-----------------|----------|
| ①坂の上の雲 (1~8) | 司馬遼太郎著 |
| ②海の都の物語 (上・下) | 塩野七生著 |
| ③沈黙 | 遠藤周作著 |
| ④細川ガラシャ夫人 (上・下) | 三浦綾子著 |
| ⑤デボラの世界 | ハナ・グリーン著 |

心の成長へ

薬学部教授 吉岡 まさのり
よしおか まさのり

身体と知の成長を促進することが、学校教育の基本的な活動の目標である。ところが、心の成長に関しては、個人の努力によるところが大である。しかし、心はみえないので、それはおろそかになる。そしていつか、登校拒否などの心の病気によるような症状が突然起こる。勿論、本人の環境にもよっているが、その障害を克服するには、心が弱いことが伺われる。心を強く育てるために、以下の本を推薦する。『夜と霧』は、戦時の収容所の人々の態度から心の本性を、教えてくれる。『こころ』は、明治の近代化によって失われてゆく心を、憂えている。『いきいきと生きよ／ゲーテに学ぶ』は、

日常の問題の真実を明らかにしようとする心を励ましている。『禅がわかる本』は、心でみるための行を悟らせる。まずは、心を動かして、読んで欲しい。

〈推薦図書〉

- | | |
|------------------|--------|
| ①夜と霧 | フランクル著 |
| ②いきいきと生きよ／ゲーテに学ぶ | 手塚富雄著 |
| ③こころ | 夏目漱石著 |
| ④禅がわかる本 | ひろさちや著 |

弱点をもっていればこそ

法学部教授 光藤 景皎
みつどう かげあき

①「フマーニオール・コーナ」向けの図書で、私の推薦した22点は、特にきちっとした基準をもって選んだのではなく、いま心に残っており、ひとにも、とくに若い学生諸君に読んでもらいたいものを、思いつくままに、アトランダムに挙げたにすぎません。

それでも、ひとは、怠惰であったり、生活が放埒であったり、社会一般の目からみると救い難いようにみえても、ひとそれぞれに弱点とともに長所もっており、弱点だけに目をつけてひとを非難するよりは、ひとの長所を見出し、それをのぼす手助けをする方がベターであると語りかけている本を自然に選んでいるように思います。また、ひとは、弱点をもっているがゆえに卑屈になることはないのであって、弱点をもっていればこそ、他人の痛みもわかる人物へと自分を一回り大きく成長させることができることを、これらの本は教えてくれているように思います。

②とくに、トルストイの『復活』から、社会生活における「寛容」の重要性を教えられました。また、「社会契約説」などを著した18世紀最大の思想家の一人ルソーの赤裸々な自己告白の書『告白』は私にとってまことに衝撃的でした。しかし、いくらか放縦な生活の中でも、自己の「思索が王たちよりも豊かで、また良質である」との自負が、あのような偉業をなさしめた、との感慨を抱きました。

③読者各人がそれぞれ「心の糧」となるものを読み取って下さい。とにかく、まず「何でも読んでやろう」と読み始めることが肝心です。

〈推薦図書〉

- 兎の眼 (灰谷健次郎) / 思い出トランプ (向田邦子) / 復活 (トルストイ) / 絢爛たる影絵 (高橋治) / トム・ソーヤの冒険 (M. トウエン) / 告白 (上・中・下) (ルソー) / 評決 (バリー・リード) / トルストイの生涯 (ロマン・ロラン) / イエスの生涯 (遠藤周作) / 優しさごっこ (今江祥智) / 万葉の人びと (犬養孝) / あすなる物語 (井上靖) / 黒い雨 (井伏鱒二) / 生きる喜び (高瀬広居) / 死と生をみすえて (吉武輝子) / ハラスのいた日々 (中野孝次) / 笑顔の人 (新田次郎) / 紀ノ川 (有古佐和子) / ジャン・クリストフ (ロマン・ロラン) / こころの風景 (遠藤周作) / 時代と自分を語る (大佛次郎) / いのちの文化人類学 (波平恵美子)

'96年度貸出図書ランキング

'95年度から統計を始めた「貸出図書ランキング」も今回で2回目。今回も、「分野別貸出図書ベスト1」は本館の普通図書室の図書（各コーナーの図書は除く）と分館の普通図書コーナーの図書を対象としており、「コーナー別人気図書」は本館普通図書室の各コーナーを対象にしています。

なお、複本のある場合は、複本の貸出回数のすべてを合計しました。

分野別貸出図書ベスト1

《情報》

はじめて学ぶC言語入門 斎藤奈保子著
実教出版 (007.647 H) 7回

《哲学》

応用心理学講座〈8〉スポーツの心理学
末利博著 福村出版 (140.8 O 8) 5回

《歴史》

概説ラテンアメリカ史 国本伊代著
新評論 (255 K) 8回

《政治》

時事問題解説〈422〉北方領土 酒井良一著
教育社 (319.1 S) 6回

《法律》

日本国憲法のしくみ 加藤晋平著
日本実業出版社 (323.14 K) 7回

《経済》

日本経済創造的破壊 三橋規宏著
日本経済新聞社 (332.107 M) 6回

《経営》

経営原価計算論 櫻井通晴著
中央経済社 (336.96 S) 12回

《労働》

労働法教室 慶谷淑夫著
労働法令協会 (366.14 K) 13回

《数学》

微分積分学：詳説演習 塹江誠夫著
培風館 (413.3 B) 6回

《化学》

薬学生のための機器分析 滝谷昭司著
廣川書店 (433.07 Y) 10回

《薬学》

薬剤師国家試験記憶術〈1〉薬理学 こくしおぼえかた研究会著
中外医学社 (499.079 Y 1) 7回

《工業基礎》

コンピュータ化オフィスの人間工学
Grandjean,E.著 啓学出版 (501.8 G) 9回

《建設・土木工学》

わかり易い木造〈15〉衛生工学〈新第2版〉 合田健著
彰国社 (510.8 W 15) 6回

《建築学》

西洋建築様式史：カラー版 熊倉洋介著
美術出版社 (523.3 U) 9回

《機械工学》

標準機械工学実験法〈13版〉 茨城大学工学部機械工学実験研究会著
理工図書 (530.7 I) 10回

《電気工学》

電気機械工学 電気学会通信教育会著
オーム社 (542 A) 14回

《商業》

「戦略広告」の時代：「会社の価値を」どう知らせるか
小林貞夫著 日本経済新聞社(674 K) 7回

《映画》

アメリカ村 佐藤忠男著
第三文明社 (778.253 S) 5回

《言語》

新編・東方中国講座〈第2巻〉読物篇 大原信一著
東方書店 (820.7 S 2) 8回

《文学》

ビリー・ミリガンと23の棺〈上〉 Keyes,Daniel著
早川書房 (936 K 上) 11回

コーナー別人気図書

【就職図書コーナー】

- 1 就職バックアップシリーズ(25) これだけマスター—般常識
スピードチェック〈大学生版〉
就職情報研究会 (377.9) 11回

【新書・文庫本コーナー】

- 1 竜馬がゆく〈1〉 司馬遼太郎著
文芸春秋 (080 B) 11回
- 2 銀河鉄道の夜：新編 宮沢賢治著
新潮社 (080 S) 9回
- 2 三国志〈1〉 吉川英治著
講談社 (080 Y) 9回
- 3 朝鮮戦争：米中対決の原形 神谷不二著
中央公論社 (081 C 93) 8回
- 4 パレスチナ 広河隆一著
岩波書店 (081 I 382) 6回
- 4 アステカ文明の謎 高山智博著
講談社 (081 K 533) 6回

人気作家ベスト10

- | | |
|--------------|-----|
| ①司馬遼太郎 | (④) |
| ②赤川 次郎 | (⑨) |
| ③宮沢 賢治 | (一) |
| ④ダニエル・キース | (⑤) |
| ⑤エドワード・オールビー | (一) |
| ⑥シドニィ・シェルダン | (①) |
| ⑦星 新一 | (⑧) |
| ⑧村上 春樹・夏目 漱石 | (②) |
| ⑨池波正太郎 | (一) |
| ⑩西村京太郎 | (⑨) |

〈貸出回数による〉

〈 () 内は'95年度の順位 〉

【ニューメディアコーナー】

- 1 Visual Basic 〈1：入門〉
瀬戸遙著 オーム社 (007.645 S 1) 9回

【日本語・日本事情コーナー】

- 1 英文日本絵とき事典〈1〉〈改訂16版〉
日本交通公社海外ガイドブック編集部
(N302.1 E 1) 3回

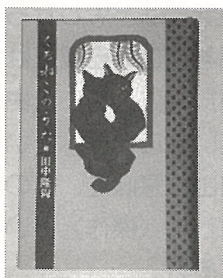
図書館員が薦める1冊

「くろねこのうた」

田中 隆尚著
青士社
(913.6 T)

ある日、一匹のくろねこが、著者である老教授の仮住いに現れ、以来しばしばやってくるようになる。このくろねこは、エサを前にすると後脚2本で立ちあがり、喜びを独特の踊りで表し、鳴き声もクッククックと歌う。これが運命の出会いである。

そしてねこ好きのオバアサマに、ねこの世話を頼むことになるがオバアサマは自分の飼いねこ共々離れに引っ越してくる。この、ねこの事なら何でもお見通しのオバアサマは「ネコのバアチャ」と



して、ほのぼのとしたキャラクターで描かれている。そのバアチャの病気を機に著者が、ねこたちの面倒をみることになるのだが、この頃からくろ

ねこ「クック」が衰弱してゆき哀傷のしらべでなきながら廊下を行き来する日々が続く。著者は後ろ髪をひかれながらも、父が昔、孫文先生から贈られ開花に成功したという蓮の根をもち中国青島に友好の旅に出る。二千年の時を超え開花した古代蓮は作品中、生きとし生けるものの輪廻を示唆しているのかもしれない。

くろねこは著者の帰りを待たずに体力が尽き死んでしまうが、著者は旅の先々でそこにいるはずもないくろねこからのメッセージを聞く。瀕死の間もくろねこは、海を越えてテレパシーを送り続けていたのだ。

ネコの風俗習慣に通じ、幾度も別れを経験してきた一人の老教授「シェンシェ」と一匹のくろねこ「クック」との出会いから別れまでを四季折々の自然の風景、中国訪問という文化交流などを織り混ぜながら旧仮名遣いを用いて書き綴られており、ネコを通じて生命へのいとおしみを情緒的に描いた好エッセイとなっている。

(奉仕係 S. Y)

～ 自 作 を 語 る ～

『夜になるまえに』

Arenas, Reinaldo 著 ; 安藤 哲行 訳
国書刊行会 1997年刊 (960.28 A)

国際言語文化学部教授 安藤 哲行

人生は絶対君主として生まれる。泣けば、まわりの者が欲望を充たしてくれるからだ。だが、そんな天国のごとき玉座に座ってられるのも束の間のこと。まずは躰という名目で親や家族が、やがては教育という名のもとに学校が欲望に枷(かせ)をかける。それも大人の都合にあわせた枷を。そうした社会という枠組みにはめこまれるにつれて「いや」と言うのを控えるようになり、拒否が相手に与える影響を、また、その拒否が我が身に跳ね返ってくるときのことを考え、したくもないことに、無理かもしれないようなことにさえ首を縦に振るようになる。欲望を抑えること、それが大人になるということらしい。

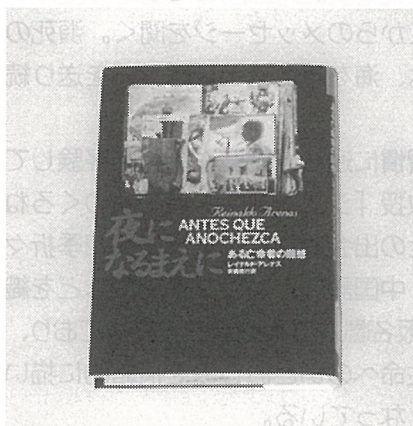
一方、そうした抑制や束縛の大きさ、多さに比例して自由への憧れは強まる。だが、自由ってなんだろう。なんの束縛もないことを自由と定義しても、個人をとりまく社会がある以上、絶対的な自由は皆無に近い。社会秩序を乱さないならば、という附帯条件が課せられるからだ。そのため自由は時代、社会体制の違いから様々な形をとることになる。では、その社会秩序なるものに異を唱える人間にとって自由とは何か。この問いに対する答えの一つをレイナルド・アレナスの自叙伝『夜になるまえに』に見ることができる。

アレナスはバティスタ独裁時代のキューバで父無し子として生まれ、寒村の極貧の中で成長し、

カストロによる革命に憧れてゲリラに加わる。だが、独裁者を倒した革命政府が共産主義化していくにつれ、ホモセクシュアルであるというだけの理由で迫害されはじめ

る。また、革命路線を支持し賛美しなければならない国で、表現・出版・言論の自由という作家にとっては絶対必要条件が整っていない国で、書きたいことを書きたいように書くという自由を求めたがためにブラックリストに載せられ、刑務所にぶち込まれ、出所後もうくな仕事にありつけない。秘密裏に作品を海外に送り、海外で名が高まれば高まるほど厳しい監視をうけ、書いたものを屋根に隠したり友人に預けたりしなくてはならなくなる。四方を海で囲まれたキューバ島は文字通り海の監獄となるのだが、それでもなお、自由を求めるアレナスの精神は萎縮することがない。そうして1980年、事件が起きる。不満分子を一掃するため、カストロが80年5月、マリエル港を開放するのだ。その港から実に12万5千人のキューバ人が脱出するが、アレナスもその一人としてちっぽけな船で憧れの合州国に渡る。ところがそこでの自由がメッキであることを悟って合州国に幻滅し、自由な暮らしのできた頃のキューバを思いながらカストロ打倒をめざして闘いつづけるのだが、やがてエイズに感染し、その病から派生するありとあらゆる病気を併発して何度も生死の境をさまよったあと、90年12月、ライフワークを仕上げたあと自ら命を絶つ。その直前に脱稿した『夜になるまえに』は、「ぼくは自由だ」という最期の手紙の一文で結ばれる。アレナスにとって死は敗北ではない。自死は自らの自由意思で選んだ一つの荘厳な行為であり、個人にとって唯一の絶対的自由を行使したにすぎないのだから。

このように綴ってくると重苦しい作品と思われるかねないが、むしろ逆で、刑務所暮らしであれハバナでの極貧生活であれ、アレナス天性のユーモア感覚のおかげでまるで作り話ではと思わせられるほどあっけらかんとしている。この自叙伝は、あまりに解き放たれているがために、逆に自由というものが見えにくくなっているこの日本という国で生きる者に、いま一度自由の意味を、その価値を考えさせてくれる。まさしく〈傑作〉という言葉はこういう作品のためにある。



～ 自 作 を 語 る ～

『大破産・中国の国有企業改革』

謝 徳祿著 : 武吉 次朗訳
東方書店 1997年刊 (335.7 S)

国際言語文化学部教授 武吉 次朗

「親方日の丸」という言葉があるが、改革前の中国の国有企業がこの譬えどおりだった。工場は原材料、資金、労働力をすべて国から支給され、製品は国が買い上げてくれ、帳簿上で赤字が出れば国が補填してくれる。中国の国旗になぞらえればさしむき「親方五星紅旗」だ。

中国の改革は旧ソ連や東欧諸国とは異なり、まず農村から始まった。人民公社が解体され、集団経営や私営の企業が續々誕生し、国有企業と並ぶ柱にまで急成長した。ほぼ同時に対外開放も始まり、進出した外資系企業が全工業生産の10%を占める日も近く、国有企業のシェアは40%を切った。畏友の中国経済学者の言葉を借りれば「体制外先行の戦略」である。外堀を埋めた上で、今や改革の重点は「体制」、つまり国有企業、計画経済システムという最後の牙城に移った。これは中国の改革の天王山でもある。

このような問題意識を持ちはじめた折も折、かねて張っていたアンテナのルートで『中国最大の破産案透視』という本を入手した。重慶市にある従業員3000人を擁する国有ニットウェア工場の破産―管財―再建の過程を辿りながら分析と論評を加えた労作である。一読、これは日本で紹介に値すると判断、出版社の快諾を得たので昨年の夏季休暇を利用して同市に飛び、著者の謝徳祿教授を訪ねた。謝教授は中国に多い理系から経済畑に移った学者で、現在は同市のシンクタンクである発展研究センターの副秘書長の要職にある。小柄な体のどこにあの迫力が潜んでいるのか、いづかるくらい温厚な紳士だが、おおいに意気投合し歓談できた。同氏はこの工場が深刻な経営不振に陥った際その処理案の作成にも関わっただけに経緯をつぶさに承知しており、活字に出来なかった裏話も披露してくれた。

中国で企業破産法が施行されたのは1988年11月1日。だが重慶ニットウェア工場の破産が宣告さ

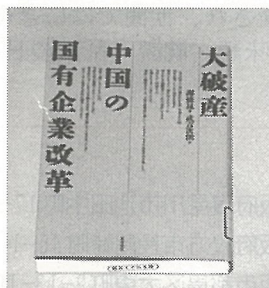


重慶にて著者謝徳祿氏(右)と

れるまでの4年間に、同法が適用されたのは少数の中小企業だけだった。「国有企業を破産させるとは、それでも社会主義か？」とのイデオログの非難、「国の主人公たる労働者を路頭に迷わすのか！」との従業員の訴え、「社会の安定に悪影響が出るのではないか」との市当局の不安のほか、債権者や銀行までが困惑し抵抗したという。現に従業員の騒ぎが2回起きた。前例がなく、より所となるべき法規も施行細則が未制定のため原則規定に止どまっている状況下で、破産を宣告し管財を進める作業が、担当者にとり如何に政治的リスクをともない困難を極めるものだったかは、われわれの想像を超える。

「初めてカニ（あるいはナマコ）を食べた人」という中国の比喩がある。未踏のテーマや分野に大胆に挑んだ開拓者のことだ。本書の底流に脈打っているのはこのような開拓者への賛歌である。翻訳を終えて、中国の近代化がこれらの人々により推進されているのだ、との感を深くした。

私はここ数年、大阪中国語学院で社会人を対象に翻訳コースの授業を受け持っている。余談になるが、社会人相手の授業は受講者が極めて熱心であり、鋭い質問も出る一方、時にはジョッキ片手に談論風発、学生相手とはひと味違った教え甲斐と楽しみがある。4年前に中国農民の出稼ぎ熱とその行方を描いた『盲流』を翻訳した時と同様、今回もこの翻訳コースで教材として採用し、12人が分担して訳出、検討と講評の後、私が訳語と文体の統一にあたった。幸い読売、日経等で「タイムリーな本が出た」「国有企業の破産の実態が解明できた」との評価を頂戴でき、識者からも「ぜひ論文で引用したい」等の反応があり、1年がかりの作業が報われた思いである。



～ 特色ある新着資料～

【本館】

Newton Classics

(908 N 1～16)

シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」、ディケンズの「大いなる遺産」など世界の古典文学が、簡潔なイラスト（劇画）によって、わずか1時間程度で楽しめる「Newton Classics」の日本語版シリーズがこのほど発刊されました。図書館では、このシリーズの現在までの発行分15点を購入しました。

これらは、どの作品も登場人物の生きた「セリフ」や作者のナレーションがじかに伝わってくるように構成されていて、原書を視覚の世界で、より身近なものとして楽しめるように工夫されています。学部学年を問わず、気軽に読んでみてはいかがでしょうか。



The Wonderful World of Sazae-san 対訳サザエさん

(N726 H 1～12)

日曜日午後6時30分からの人気テレビ番組といえば、長谷川町子の「サザエさん」。その「サザエさん」が英語版（対訳）で出版されました。セリフはすべて英



語ですので、楽しみながら英語の勉強をするにはもってこいです。

もし、英語がわからなくても、枠外に日本語訳が載っていますので心配ご無用。見ているだけでも楽しくなってきます。

どなたにも楽しく読めることを保証しますので、ぜひ、手に取って読んでみてください。

【分館】

RTECS CD-ROM版

[Registry of Toxic Effects of Chemical Substances]

(491.59 R)

RTECSのCD-ROMは、米国労働安全衛生研究所(NIOSH)による化学物質の毒性についてのデータを収録したものです。約130,000件の化学物質の毒性情報をリストしています。収録項目は、名称・CAの登録番号・分子量・各毒性データ（発ガン性に関する）など現存する有毒な化学物質のデータを素早く検索することが可能です。データは年4回更新されるので、化学物質の毒性、生物学的影響に関する最新のデータを得るのに最適なツールといえます。



書架の耐震工事

1995年に阪神・淡路大震災が起きたことは、皆さんの記憶にも新しいことと思います。その時、書架が倒れ、壊れ、図書が大量に落ち、破損しました。またいつ地震が起きるかわかりません。皆さんの生命の安全のために夏期休暇を利用して、本館・分館ともに書架耐震工事を行いました。

カーペットの張り替え

現在の図書館は、1982年4月に設置されました。それからはや15年が経過し、長年の間に館内のカーペットに退色・擦り切れ・シミ等が見られるようになりました。このため、特に傷みがひどくなってきた6階普通図書室の“カーペットの張り替え”を夏期休暇中に行いました。

編集後記

- ・「なみはや国体」が9月から10月にかけて、大阪で開催され、世間ではにぎやかな日々が続きました。
- ・食欲の秋、スポーツの秋、そして「読書の秋」です。味読・耽読・乱読の日々を過ごしましょう。
- ・今号にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

(S.T)

摂南大学図書館報「学而」No.51 1997.10

編集・発行 摂南大学図書館 本館 〒572

枚方分館 〒573-01

印刷 (株)ミトヨ

〒534

大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL. (0720)39-9112

大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL. (0720)66-3102

大阪市都島区大東町2-13-10 TEL. (06) 922-1178